



元台湾総督  
かみ やま みつ の しん  
上山満之進



画家  
ちん とう は  
陳澄波



🌸 地域公開フォーラム 🌸

かみ やま みつ の しん  
防府の先人 上山満之進の精神を  
いかに現代に活かすか  
～台湾との友好を目指して～



日時：2016年12月11日（日）14:00～16:45

場所：防府グランドホテル 2F フリージア

防府市駅南町 15-20 (tel 0835-25-1133)

入場  
無料

予約  
不要

主催：上山満之進に学ぶ会 共催：防府・山口市市民嘉義市友好訪問団／山口県立大学国際文化学部

協力：陳澄波文化基金会（嘉義市）／防府市観光協会／防府商工会議所 後援：周南市児玉源太郎顕彰会



# 防府の先人 上山満之進の精神をいかに現代に活かすか ～台湾との友好を目指して～

❀ **開催の趣旨** 郷土の偉人、上山満之進の功績を再評価しようとする動きが高まっている折から、9月に上山元台湾総督と縁のある画家・陳澄波（ちん・とうは）の出身地、台湾嘉義市を訪れた私たちは、台湾側が防府市との交流に寄せる熱い思いに強く心をうたれました。そこで、上山満之進の思想を現代に活かし、台湾との交流を進めることを願って、今回の交流経験の報告をかねた地域公開フォーラムを開催することといたしました。歴史・文化財・美術・国際交流によるまちづくりに興味のあるみなさんのご参加を心待ちしております。

❀ **プログラム** （開場は13：30です。開会までと休憩時間にポスター発表をご覧ください。）

14：00－14：10 **開会** 今なぜ上山研究か（井竿富雄 山口県立大教授）

14：10－15：35 **第一部・地域主義の先駆者上山満之進と台湾画家陳澄波**

講演 上山満之進の足跡（児玉識 龍谷大元教授）

講演 陳澄波と防府市所蔵作品『東台湾臨海道路』について

（李淑珠<sup>りしゅくしゅ</sup> 明志科技大副教授）

コメント 上山満之進の志に共鳴する山口県ゆかりの人々（安溪遊地 山口県立大教授）

15：35－15：45 **休憩**

15：45－16：15 **第二部・防府市と台湾・嘉義市との交流の可能性**

発表 山口県立大学の台湾実習報告（山口県立大学国際文化学部・地域実習受講生）

発表 台湾を訪ねて思ったこと（臼井大和 富海藍作研究会会長）

発表 陳澄波の長男・陳重光氏との出会い（上山忠男 上山満之進研究会）

16：15－16：45 **閉会**（来賓のご挨拶のため予定より20分延長します）

来賓挨拶（陳立栢<sup>ちん りつぱく</sup> 陳澄波文化基金會董事長）

来賓挨拶（林世英<sup>りん せいえい</sup> 台北駐日経済文化代表処教育組組長）

お礼のこたば（毛利元敦 毛利報公会会長）

17：15－19：30 **懇親会**

（チラシの予定より開始が15分早まりました。フォーラム会場隣の部屋です。）

❀ **ポスター発表**：陳澄波<sup>ちんとうは</sup>の残したノートから見えるもの

- ・20歳の日本語作文帖（安溪遊地・山口大学非常勤 安溪貴子）
- ・30代の東京美術学校講義録（山口県立大准教授 吉永敦征）
- ・30代の美術批判ノート（井竿富雄）





## 講師・来賓のプロフィール

### 児玉 識（こだま・しき）

1933 年、山口県に生まれる。1960 年、京都大学大学院修士課程文学研究科修了。下松高校、豊浦高校、宇部工業高専、水産大学校勤務を経て、1998 年より龍谷大学文学部教授、2002 年、同定年退職。文学博士。現在、山口県防府市富海円通寺住職。著書に『加藤辨三郎と仏教 科学と経営のバックボーン』（法蔵館、2014 年）、『近世真宗と地域社会』（法蔵館、2005 年）など。

### 李 淑珠（り・しゅくしゅ, Li Su-chu）

台北県にある私立・明志科技大学視覚伝達設計系副教授。京都大学美学美術史学博士。現在の担当は、美学概論、設計概論、東亞近代美術史等。

主な著書・論文に、『表現出時代的「Something」：陳澄波繪畫考』典藏藝術家庭、2012 年（京都大学博士論文の中国語訳）。「台湾近代美術に描かれた子供たち——時局との関連に注目して」、中村俊春（編）『絵画と私的世界の表象』（シリーズ「変容する親密圏／公共圏」第 3 巻）、京都大学学術出版会、頁 273-310、2012 年。「台湾ローカルカラーの戦時動員について」『美術史』第 161 冊、美術史学会、頁 46～61、2006 年など。



### 台北駐日経済文化代表処教育組組長 林世英（りん・せいえい, Lin Shih-Yin）

中華民国（台湾）の日本における外交の窓口機関です。民間の機構ではありますが、実質的には大使館や領事館の役割を果たしています。1972 年の国交断絶後も、中華民国（台湾）と日本の両国は、お互いにそれぞれの権益を保護し、ビザ発給をはじめ貿易推進、学術・文化・スポーツ交流などの業務を行い、今まで通りの両国の深い関係を維持しています。現在、駐日中華民国（台湾）大使に相当する台北駐日経済文化代表処代表は謝長廷氏です。台北駐日経済文化代表処は東京都港区白金台 5 丁目 20 番地 2 号にあります。また横浜、大阪、福岡、那覇、札幌には弁事処、分処を設置し、領事部、經濟部、教育部、広報部、台湾文化センターなどが活動しています。（公式 HP より）



### 陳澄波文化基金会 董事長 陳立栢（ちん・りっぱく, Chen Li-po）

台湾嘉義市出身の油絵画家陳澄波（ちん・とうは、1895-1947）の遺族が画家の志を受け継ぎ、台湾の芸術の発展と国際交流を目指して設立した財団法人。1999 年 6 月 15 日に教育部の許可により発足。文化建設委員会に属す。設立の目的は以下の 6 つ。

1. 台湾の芸術文化の様々な取り組みの主催および共催。
2. 国際的な芸術文化の取り組みへの参与。
3. 台湾の芸術文化を熱愛する青年学生や社会人を表彰。
4. 台湾芸術の先人画家作品の補修と出版への助成と協力。
5. 陳澄波の作品の研究とその画風の発展への助成と表彰。
6. その他会の設立の趣旨に沿った事業。



『増補改訂版・上山満之進の思想と行動』

児玉識編著（2016）1500 円＋税

台湾総督、貴族院などを努め、立憲政治の尊重を訴え、軍部政治への介入を弾劾。さらに、防府市立防府図書館の前身「三哲文庫」を設立するなど、その行動と思想を探り、現代に活かして台湾との友好へ発展させる道を求める。防府市立防府図書館版（2015 年）を改訂し、あらたに、防府市と嘉義市の友好の可能性、山口県と台湾の友好の可能性（安溪遊地）を加える。



『遠い空——國分直一、人と学問』

安溪遊地・平川啓治（2006）3200 円＋税

水産大学校・梅光女学院教授などを歴任。日本を代表する民族学者・國分直一の生涯。植民地時代の台湾に始まり、戦中戦後の混乱期を経て 96 歳で没するまで、東シナ海を巡る総合的先史学の構築に情熱を傾け、考古学・人類学・民族学・民俗学の各分野に多大な影響を与えた國分直一。台湾時代の同人誌に掲載の半生記を中心にした自伝と、興味深いエピソードがちりばめられたインタビューから見えてくる、その人柄と学問世界。序文＝金関恕（天理大学名誉教授）。

『龍王の海——国姓爺・鄭成功』

河村哲夫（2010）2500 円＋税

東アジア海域の覇権を求め戦った日中混血の海将。大航海時代の国際貿易港・平戸で中国人海商と日本人女性の間に生まれた鄭成功。明の滅亡、西欧列強の進出、日本の鎖国化という激動の東アジアを舞台に、彼はいかに戦い、いかに生きたのか。中国・台湾で今なお民族的英雄とされる鄭成功の生涯を、豊富な資料を駆使し、鮮やかに描き出す。

『鳳凰木の花散りぬ——なつかしき故郷、台湾・古都台南』

今林作夫（2011）1800 円＋税

植民地・台湾で日本人はどう暮らしていたのか。日本が植民地とした台湾・台南市で生まれ、幼年期を過ごした著者が描く家族の物語。花園幼稚園、花園尋常小学校、東市場、今林商行、銀座通り、魚源。2 つの文化の中で暮らした十数年の日々。

❀ 上記の書籍は、会場にてお求めいただけます。

❀ 梅花之縁・学問の神様と牛

中華民国の国花は梅です。建国の父・孫文（孫中山）が、寒さの中でも花をつける強さから選びました。防府市の花も、菅原道真公の愛でた梅です。でも、暖かい台湾では梅はほとんどみられません。防府天満宮の梅まつりのころに山口県を訪れていただき、寒さのなかでの暖かい歓迎ができたらどんなにすばらしいでしょう。

また、台湾では、今でこそ牛肉麺が人気ですが、もともと農耕用の牛を大切にし、食べることはありませんでした。また、中華圏の学問の神様、文昌帝君（菅原道真公と同じく丑年生まれ）が牛に座っているため、受験生などは牛肉絶ちをすることがあるといえます。日本の学問の神様・天神様のお使いの臥牛との不思議な共通点ですね。（安溪遊地）

出典 竹内秀雄『天満宮』吉川弘文館（1996 年）、<https://www.ys-consulting.com.tw/column/49203.html>